

あみ自然大好きプロジェクト

～地域とつながり環境と未来を考える～

代表者：農学部地域総合農学科 3年 染谷 海

連携先

阿見町・町民生活部・生活環境課

小笠原 浩二 様

村上 馨 様

豊崎 郁子 様

顧問教員

小松崎 将一(農学部・教授)

参加者

染谷 海(農学部地域総合農学科・3年)

江寺 巧(農学部地域総合農学科・3年)

佐藤 里桜(農学部地域総合農学科・3年)

井上 渉(農学部地域総合農学科・3年)

深澤 茉那(農学部地域総合農学科・3年)

プロジェクトの概要

●背景

令和 3(2021)年に第 2 次阿見町環境基本計画が策定された。その中で、自然の大切さや人との関わりを普及するための取り組みとして「あみ自然大好きプロジェクト」が進められている。町民にこうした取り組みの輪を広げていくことが課題となっている。この課題解決のため、本プロジェクトを実施した。

阿見町では、うら谷津自然観察会などを毎年開催し、子どもや町民に自然観察とふれあい体験などを行なっている。また、霞ヶ浦清掃大作戦やクリーン作戦などの開催によ

って町民の環境活動と交流の促進を図っている。

●目的

本プロジェクトは、阿見町で活動している環境団体の方々と連携し、環境や地域の未来について考え、若い人など活動を知らない方々に活動を知ってもらうことを目的として行った。

●プロジェクトの実施過程

2021 年 10 月 6 日に学生の参加者が集まり、阿見町で行われている自然大好きプロジェクトの状況について顧問教員から説明を受けた。その際、あみ自然大好きプロジェクトの認知度が低いこと、若い年代の方の参加が少ないことなどの問題が挙げられた。そこで、学生たちで打ち合わせをして地域連携プロジェクトの申請の可能性について検討した。

10 月 13 日には、学生たちでプロジェクトの申請計画を策定した。ここでは、ワークショップの開催を行い、あみ自然大好きプロジェクトを学生に周知することを提案した。また、連携先として、阿見町町民生活部生活環境課に依頼し、小笠原課長から、阿見町環境基本計画について説明を受け、阿見町における町民が行っている環境保全活動の内容について学習した。そこで、阿見町では「神田池を保全する会」や「うら谷津再生の会」、「実穀近隣公園ほたる野会」などといった団体の活動が行われていることを情報共

有した。

以上の取り組みから、学生の意見として、「阿見町の現在の状況について知る事ができたとともに、今後私たち自身もこのような活動に関われたらよいと考えた。」「阿見の自然大好きプロジェクトの活動について知ることができたとともに、さらなる情報の収集と発信を進めることが必要だと考えた。」「阿見町の環境保全活動について知ることができ、地域の方々と協力してこのような活動について広めていきたいと考えた。」などが寄せられ、コロナ禍の中で地域との連携について中々考えられなかったが、阿見町役場の話を聞いて町民における環境保全活動について学ぶことができた。



図1 連携先の方々との打ち合わせの様子

●「学生が取り組む『あみの自然 大好きプロジェクト』～地域とつながり環境と未来を考えるワークショップ～」の開催

12月8日に、ワークショップの開催にあたってプログラムを作成した。開会のあいさつや基調講演および町民の方々の活動について、どのような報告が良いのか検討した。また、ワークショップ周知用のポスター作成を開始し、ポスターのデザインや申し込み方法などについて打ち合わせを行った。

さらに、町民の方々の活動については4人の方から以下の表題について報告を行っていただくこととした。

①稲川 雅信「阿見町の植物の保全活動から」

②吉田 幸二「NPO 水辺基盤協会の取り組み」

③山崎 友美子「あみの食の現場から」

④栗原 友香「親子自然体験クラブ森のきのこの取り組み」

この4つの報告依頼を、阿見町役場を通じて行うこととした。また基調講演として、ゼロカーボンシティ宣言に関する取り組みについて報告いただくよう、学生が茨城大学の教員に依頼することとした。

12月15日に、学生と役場の職員が参加のもとに最終的にポスターの確認を行い、修正事項を取りまとめた。また、zoomを利用したオンライン開催の実施方法について打ち合わせを行った。

12月23日にはポスターを完成させ、その後、学生や地域連携課および阿見町役場に周知した。阿見町役場では、役場のHPに掲載され町民に周知を行うことができた。

1月25日に、オンライン開催のワークショップのリハーサルを行った。ここでは、学生は自宅から、阿見町役場では役場の会議室からアクセスしリハーサルを実施した。

1月29日に、ワークショップを下記プログラムのとおり開催し、参加者は41人であった。



図2 ワークショップ周知用ポスター

●プログラム

9:50 開場

10:00 開会 進行：学生

あいさつ 阿見町長：千葉 繁

10:10 基調講演 地域環境がカギを握るカーボン・ニュートラル 茨城大学学長特別補佐(SDGs推進)：蓮井 誠一郎

10:40 町の活動団体等からの発表

「阿見町の植物の保全活動から」 阿見町環境基本計画推進委員：稲川 雅信

「NPO 水辺環境基盤協会の取り組み」

〃：吉田 幸二

「あみの食の現場から」 〃：山崎 友美子

「親子自然体験クラブ森のきのこの取り組み」 〃：栗原 友香

11:40 意見交換 進行：学生と阿見町

11:55 閉会あいさつ 阿見町環境基本計画

推進委員：川畑 秀慈

●阿見の食育に関する動画の作成

11月17日に、ワークショップの打ち合わせの際に阿見町の環境保全活動に関する動画作成について、依頼を受けた。学生で話合った結果、阿見町の農業と環境に関する動画の作成について検討することとなった。動画の内容としては、①地域の農産物、②阿見の農業の生産構造の変化、③阿見町における有機農業、④阿見町のフードロス、⑤阿見の食、⑥農業体験 の6つである。

これらについて取りまとめる担当を決めた。12月22日に、関連する写真やデータを持ち寄り、動画作成の素案を作成した。動画作成については、プロジェクト期間中には完成できなかったため今後検討する。

プロジェクトの成果報告

●プロジェクトの成果報告

ワークショップを実施して、参加者からは以下の意見が寄せられた。

「この度は有意義なワークショップを企画・推進下さり有難うございます。良いワークショップであったと思います。町民の一人として嬉しく思います。学生の方々が真摯に取り組む姿に感じ入りました。彼等彼女らにとって得難い経験であろうと思うと同時に、地域が若い人に期待しても裏切られないだろうと感じました。また、テーマの大きさを考えると単発で済むものではなく、継続することも重要と考えます。」

この意見を受けて、本ワークショップの開催によって、町民の方々に期待を寄せていただけたことを嬉しく思うと同時に、今後も活動を継続していくことが重要となるこ

とを実感した。

また、プロジェクトに参加した学生からは、「今回のような経験は自分にとって初めてであり不安もあったが、色々な意見を聴くことができとても有意義な時間となった。」「ワークショップを通して、自然の大切さについて改めて考えることができ、農学部学生という環境を利用するものとして意識的に環境保全に取り組んでいかなければいけないと感じた。」「環境団体の方からお話を伺い、地域で実際に取り組まれていることや地域の自然環境について学ぶことができた。今後、阿見の自然環境を保護していくためには、私たちのような若い世代の取り組みも重要になっていることを改めて実感した。」「ワークショップが開催されるまでは、阿見町ではどのような環境に関わる活動が行われているのか知らなかったため、これについていろいろと勉強になるところが数多くあった。今回のワークショップを踏まえて、持続可能な社会の在り方について考えていきたい」などの感想が寄せられた。

また、ワークショップでの活動内容を雑誌Basser(バサー)に掲載していただいた。こちらの記事では、本ワークショップでNPO水辺基盤協会の活動についてご発表いただいた吉田幸二様が、ワークショップ全体の概要とご自身の感想を述べられている。



図3 雑誌Basserでの掲載ページ

●成果のまとめと今後の展望

ワークショップを開催したことで、阿見町の環境と未来について考える機会を多くの人に提供できた。また学生だけでなく町民の参加者もあり、『あみの自然大好きプロジェクト』の取り組みの輪を広げることに貢献できたと考える。加えて、身近な環境問題について我々学生ができることを考えるきっかけになった。活動をより多くの人に知ってもらうために、今後も引き続き活動を継続していくことが必要となると考える。参加者数はまだまだ増加の余地があるため、次に開催する時は周知方法を工夫したい。動画作成に関しては、関連する写真やデータを持ち寄り、動画の素案を作成した。しかし、プロジェクト期間中には動画を完成できなかった。コロナ禍のため思うように活動を進めることが難しいが、今後は動画の完成を検討していきたい。